# 語釈 ： インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語（55）
# (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後　藤　　寛

本連載は表題に示すように「語釈」であり英語の語彙論的解釈(lexical interpretation of English words)であるが、まるですべて基礎的な内容で、仮に大学での Basic lexemes（Basic 語彙素）をテーマとした英語学の各論ゼミであれば学部レベル程度のもので、それ以上のレベルとなる事項は少ない。(1)では今回も試問の形で扱う。(2)はメキシコ国境の壁建設で膨大な費用の負担は米国側かメキシコ側かという商取引の内容である。

(1) Don't ever forget — *this election is about YOU.　It is about YOUR family, YOUR future, & the fate of YOUR COUNTRY.　We begin our campaign with the best agenda, & the only positive VISION（　　）our Country's future ! #Trump 2020　(June 19, 2019)　　（*this election：2020 年の大統領選挙）

**試問**　1) 太線語 fate, campaign, agenda, vision の４語うち２語が Basic で便宜的に用いることのあるプラス α Basic 語であるが、それはどれか。

2) 太線語 campaign, agenda とそれぞれ同系の語を本体 850 Basic 語中から１つだけ示せば？

・campaign _____　　・agenda _____

3) 文中の括弧内に入る空間詞は for,　in,　on,　to のうちどれ？

▲これは本連載(52)の(1)で扱ったフロリダ州での大統領選出馬表明の翌日に Trump 氏が Twitter 上に書き込んだ tweet である。「次期大統領選はあなた、あなたの家族、あなたの国の運命に関するものであり、われわれは最良の政策、わが国の将来の唯一確かなビジョンをもった選挙活動を始めることとなる」と言っている内容である。３行目で our Country's future と Country の C を大文字化する Trump 正字法(Trump orthography)であるが、ごくまれに見落としもある。彼は他国には小文字の c とする。

試問 1)であるが、Basic でプラス α Basic 語として選定された語には特徴がある。

試問 2)の campaign は cam の部分、agenda は ag の部分の音形・語形に注目する。cam の[kæm]は[kæn]ともなり「空（から）のこと、何も無い空間」の意味で can（缶）、camp, campus, champion などは同系語（champion は元は「広々とした平原・戦場で戦う人」の意味であった）、また ag の[g]音は[k]音ともなり「行動を起こすこと」がそれぞれ原義〔前者は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(80)、後者は例(119)参照〕。また、ag に関しては本連載(11)でも扱っておいた。

試問 3)での future（将来）の vision（ビジョン・展望）とは「前方にあるもの」。

……

〔正解〕1) fate, vision が正解。*fate, vision* とイタリック体としておく。*fate*（運命）の[fei], [fə]と響く音にしばしば「言う、語る(to say)」の意味が隠れている。*fate* には「神が語る」の語感がある。un-Basic 語 famous, fable, infant [< in (= not) + fant (= to say)]（口がきけない → 幼児）などは同系。また、*vision* などの[viz]からは多くの同系語が生まれた〔同上拙著、第二部、例(67)参照〕。2) campaign の Basic 同系語の例は **canvas**、agenda の Basic 同系語の例は **act**。3)　for

〔以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01- 05)より ― ２言語対照〕

⑵ The Wall will be paid for, directly or indirectly, or through longer term reimbursement, by Mexico, which has a ridiculous $71 billon dollar trade surplus with the U.S. The $20 billion dollar Wall is "peanuts" compared to what Mexico makes from the U.S. NAFTA is a bad joke ! (January 18, 2018)

**cf.** El Muro lo pagará México, directa o indirectamente, o mediante reembolso a largo plazo, que tiene un ridículo superávit de $71 mil millones de dólares en el comercio con EE.UU. ¡ El Muro de $20 mil millones son "migajas" comparado con lo que México gana con el TLCAN ! (18 de enero, 2018)

▲文中の太線語 reimbursement の意味は？接頭辞 re (= back)と im (= in)から推測もできるが、-burse-の音と語形にじっくり注目するのである。/b/音はしばしば/p/音へ置き換えて考えることができる。歴史言語学的には同じ phoneme（音素）でもあるからである。既知の語として purse（財布）が直感できれば相当な域にある。仮に purse が未知なら既知の Basic 語で初頭音素/p/をもつ語によりどころを求めればよい。Basic 本体 850 語中で初頭音に[p]をもつ語は全部で 59 語で数は限られている。**pocket** が同系語である。さらに推理し purse, pocket の/p/を逆に同一音素/b/に置き換えてみるのである。[b]の音をもつ語は全部で 66 語で、これも数は限られている。ここから **bag** がひらめけばよい。**ball, bulb, bell, boiling** なども同系語だと感知したい。プラスαBasic 語 *bubble*（泡）も同じ血統の語。すべて「丸く膨れること」が原義である〔この例は実は本連載(16)の⑵でもすでに見たが、さらには同上拙著、第二部、例(136)参照〕。

*bubble* の例を出したが、謎掛けなら「プラスαBasic 語 *bubble*（泡）と掛けて何と解く？」、「Basic 語 **pocket** と解く」、「その心は？」→「共通な原義が丸く膨れることである」ともなる。reimbursement は「返済」の意味である。

この tweet は Trump 氏が一貫して主張してきた商取引で、「国境の壁費用は直接的にも間接的にも、また長期の返済でもメキシコが払うべきで、メキシコは米国との貿易で 710 億ドルのとんでもない余剰となっている、このことを考慮すると 200 億ドルの壁費用など何でもない、NAFTA（北米自由貿易協定）などおかしい！」という内容。

本連載前々回(53)で扱ったが、Trump 氏は元来が商取引(business transaction)のプロである。物の売買(buying and selling goods)の例を引き合いに出し 1970 年代から 2000 年の 30 年間に渡り興味深い語彙意味論(lexicology)を展開したのが米国の英語言語学者 C. J. Fillmore で、Frame Semantics（フレーム意味論）を提唱した。

文中の下線語 peanuts（ピーナツ）は本連載(51)の⑵でも見た。俗っぽい語で「取るに足りなく、つまらないもの」の意味。金銭であれば「はした金」の意味ともなる。

母語ではない外国語はまずはやはり受動的に文字言語としての reading で意味が分かること、音声言語としての listening で意味が分かることが先決だろう。日本人にとって writing や母語話者と息を合わせる speaking は容易ではなく、つたないものとなるのも現実で英語の orthological なモデルを示すことは難しい。大学で筆者がある時、学生に研究課題に関する paper 提出を求めたとき"高校時代に英語の先生が教室でネイティブの ALT (Assistant Language Teacher) の先生の英語がよく聴き取れなく、言う英語が通じなく、自分たちはこういう先生に英語を習っていたのかと思うと悲しい"と加筆してあった女子学生の paper があり、日本の初等中等教育機関での英語教育現場の実情の一端を書いたが、驚いたというより印象に残った。実際には何かと難し

いわけで日本人で speaking を日常的なものとしている人は限られる。母語話者と対面で呼吸法を合わせる tuning の方法・技たる speaking（対話）以前に、確かなモデルのある reading と hearing (listening)にまずは心すればよかろう。writing でもモデルに従う方法はある。本連載(52)・前回(54)で触れた復文式和文英訳で、発見の連続となる。

今日、大学の研究者でアメリカ政治が専門であれば本国での生活体験もあり本連載のような内容は講義言語を英語とし扱う人も多いが、こういうものに対応するには下地としてのリズムに乗った速読読解力・語彙力・語法力・広範な知識が必要となる。黙読(silent reading)でもリズム(mental prosody)感は養える。reading にも手早い要領（コツ）があるだろう。It's easy to ride a horse once you get the hang of it.「一旦、コツを覚えれば乗馬は楽である」という英語の言い方もある（hang は knack とも言う）。

文中に directly or indirectly とあるが、二重下線とした-tly と in-には要注意となる。前者の[l]音を含む tly [tli]音の響きに関しては本連載(43)、(45)の(2)、前々回(53)で触れたが、後者の in- は対比であり indirectly は[índərèktli]と第１音節に強勢がかかる。これは明確な例であるが、Trump 氏の語強勢は適宜どこでも起こる。語強勢も執拗に固定化すると混乱が起こり危険である。明確なもののみへの注目となる。

発声に関わる人体部位は腹部、胸部、喉、口腔となるが、[l]音はこの口腔の舌先と歯茎でつくられ、口元と鼻から吸った息（酸素 O）が吐く息（二酸化炭素 $CO_2$）となり、その息が舌の両側から流れる。英語の美しい側音[l] (lateral 'l')に特別に注目されてよい。音声の聴取では本物の英音の１音１音(sound) →１音節１音節(syllable) →1 語 1 語(word)へと追い捕えて放さない絶対聴取(absolute hearing)が必要だろう。語がつながってではなく１語１語が区切れて聞こえるか？語が語として聞こえるか？だろう。

また、memory span（記憶の範囲）とされる本物調英語の 7±α語による語結合が shadowing（後追い）できればほぼよかろう。あとは文字を介した特に速読(speed reading)を介した豊富な語彙力の養成と語法の獲得が語(word)と文(sentence)の音聴取に有効となる。最終的には discourse（テクスト段落文）を意味のまとまりとして聴取していくことになる。これで完成。いずれにせよ、人により異なる響きの allophone（異音）を同一の phoneme（音素）として感知するのであるが、ここまでの道のりは長い。人から習って習えるものでもなく、みずから志をもち切り開いていくこととなる。

ネイティブが明確に違いが認識できるいわゆる[l]音と[r]音などの違いは英音に真には耳の開いていない日本人には決定的な難点である。発声器官の一部である口腔の sound box（サウンドボックス：共鳴箱）内の作用を筆者は機械エンジンの４工程（吸気・圧縮・爆発・排気）になぞらえている（特に「排気」がポイントとなる）ことも本連載(21), (51)などですでに触れたが、ネイティブが発するステレオ音響(stereophonic）の１音１音を常にこの sound box 内の映像的イメージ化で追っていくとよいだろう。

上で It's easy to ride a horse once you get the hang of it.の文例を引き合いに出したが、ネイティブが自然なテンポと呼吸法でこの文を発するといかにも英語的な響きの典型が示されるはず。特別にこういう例ばかりを収集し英音を聴きつけるとよい。もう１例だけ示せば、すべて１音節語の文（Basic 文）Go back and say to 'em we'll be right here！「戻って奴らにわれわれがここにいると言え！」等々、くだけた音調で語られる洋画の soundtrack を介したセリフ中からいくつも拾い集め聴きつけるとよい。

本連載では文単位ではなく一定の程よい長さをもつ tweet 文例をたたき台にその意味的流れを追っているが、本連載(36), (37), (38)などでも触れた taxotagmemics（談話文特性素論）の視点から anaphora / cataphora / exophora（前方・後方・外部照応関

係）にも注目したい。今日的な text linguistics（テクスト言語学）での discourse coherence（意味的結束性）であるが、言語意味哲学の古典的文献 Ogden, C.K., Richards, I. A. and Wood, J. (1921) *The Foundations of Aesthetics*『美学の基礎』、また thought pattern（思想パターン）としての the Triangle of Reference（いわゆる「意味の三角形」）を提示した Ogden, C. K. and Richards, I. A. (1923) *The Meaning of Meaning* などを母体に生まれた EP 本では、III の巻末部で feed-back, feed-forward の視点から平易に説かれはする(EP III, pp.228-230)〔同上拙著、第三部、pp. 173-223 参照〕。なお、**EP 本 III 全頁の「頁別テーマ早見表」**を Newsletter 2023 年 6 / 7(8)月号で提示した。

いずれにせよ注目点で、今日 C. K. Ogden（編）の *Psyche* 全 18 巻など研究上での専門文献に不足はないので今後は「日本オグデン / リチャーズ学会」（The Ogden - Richards Society of Japan：ORS[ɔɚz] - JAPAN）〔仮称〕でも設立され心理学・社会学等々を含めた先端的、学際的な Basic 言語学（orthology)の本格的研究がなされるとよかろうと考える〔同趣旨は本会 *Year Book* No. 75 (2023)での拙稿でも示唆した〕。

上の(2) cf. のスペイン語文中では reembolso が英語の reimbursement に対応するが、スペイン語 bolso は **bag**、bolsillo は **pocket** の意味である。また、pagará (< pagar), México, directa o indirectamente, largo, ridículo, superávit, millones, dólares, comercio, EE.UU (Estados Unidos), comparado, gana (< ganar)は、それぞれ英語の pay, Mexico, directly or indirectly, large, ridiculous, surplus, millions, dolars, commerce, United States, compared, gain と対応し、同系語である。ここでも英語からほぼ自動的にスペイン語が導き出せる（太字体は Basic 語、下線は Basic の範疇語）。

なお、英語の略号 NAFTA(the North America Free Trade Agreement)は、スペイン語では TLCAN (el Tratado de Libre Comercio de América del Norte)となる。

**（演習）**本連載（51）~（55)より

音感と語感からほぼ瞬間に感じ取りたい。すべて解説とともに扱ってきたもので、確認となる。

1）次の a)～g）の Basic 語と同系の他の Basic 語は下の① ～ ⑦のうちどれか（イタリック体はプラス α Basic 語）。

a) **clear**　b) **healthy**　c) **event**　d) **stick**　e) **transport**
f) **road**　g) **quick**

＊　＊　＊

① **attack**　② **glass**　③ *holy*　④ **important**　⑤ **invention**
⑥ **ready**　⑦ *whisk(e)y*

2）次の① ～ ⑧の一般語と同系の Basic 語は下の a) ~ h)のうちどれか（イタリック体はプラス α Basic 語）

① declare　② glance　③ ribbon　④ etiquette　⑤ appreciate
⑥ security　⑦ infant　⑧ agenda

＊　＊　＊

a) **act**　b) **bent**　c) **clear**　d) *fate*　e) **gold**　f) **price**
g) **secretary**　h) **ticket**

〔正解〕 .....

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1) | a) ② | b) ③ | c) ⑤ | d) ① | e) ④ | f) ⑥ | g) ⑦ | |
| 2) | ① c) | ② e) | ③ b) | ④ h) | ⑤ f) | ⑥ g) | ⑦ d) | ⑧ a) |